

## 一第88編 一諏訪山での三十年

気が付けば、ここに移り住んで30年になろうとしている。中目黒駅に近い諏訪山の一角である。子供のころから引越しには慣れていたが、結局ここが一番長い期間の居住地となった。仕事場のアトリエも同様である。その間、中目黒はすっかりメジャーになった。

近くを流れる目黒川<sup>\*1</sup>は、3面張りの河畔に延々と植えられた桜並木がすっかり成長し、花見の季節ともなれば花見客が大挙して訪れる。代官山からぼつりぼつりと落ちてくるように、川沿いにブティックやカフェ、レストランが立地し始めたのは花見客が増え始めた頃と一致する。元来24時間タイプの業種・業態が

立地していたこの地区は、こうしてあつという間に名所となった。そもそも日比谷線と東急東横線の接点という交通便利性に恵まれていた地域だが、目黒区役所が破たんした生命保険会社の社屋を買収して移転してから乗降客数も飛躍的に増加した。この恩恵は隣接する下町の目黒商店街にも波及し、この種の商店街としては来街者数も健全である。その低地から坂道や階段を上ると諏訪山である。

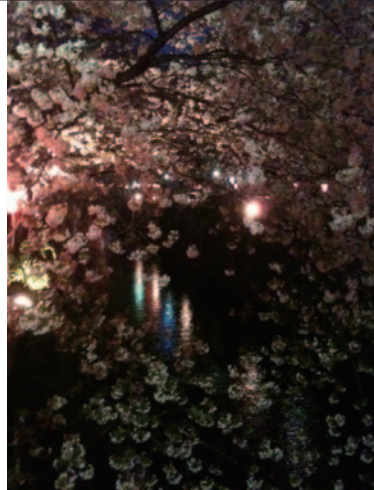


写真88-1 目黒川沿いの桜

\*1  
目黒川・世田谷区、目黒区、品川区を流れ東京湾に注ぐ2級河川

さらに北側にある東山との間には、蛇崩を介して暗渠となった緑道の水路が走る。かつては樹林地だった諏訪山も、震災後の開発とともに宅地化され、戸建や低層集合住宅の山の手住居地域となった。我々がアトリエとともに転居して来たのは1988年だが、それ以来ずいぶん様子が変わった。戸建の集合住宅化には我々も関与したが、相続が進行するにつれ、画地、住まい、まちなみの形状が変わった。それでも、元来地味に肥えた土地柄で、ほんの少しの裸地があれば豊かな緑が育つ。花が咲く。隣地にある避寒桜は今ではもう巨木となり、目黒川より一月以上早く開花する。そしてムクドリや野生化したインコたちが花の蜜を食う。彼らのさえぎりのコーラスは春の到来の合図である。

我々はこの山の上で一度引越している。その時、藤を一株持ち込みアトリエの庭に移植した。それが今では2階の屋根の上まで育ち、毎年という訳ではないが私の誕生日（4月29日）をめぐって咲き誇ってくれる。ここには熊蜂た

ちがぶんぶん羽を鳴らしてやってくる。

四季折々の姿や香りで彩られる諏訪山の一年は、こうして過ぎてゆくのだ。縁あって、この地に住み、仕事をする幸いに巡り合った幸運に、私たちは感謝するのみである。



写真88-2 移植した藤



写真88-4 アトリエ・アプローチの一角



写真88-3 アトリエのバルコニーと緑